

## 日本人学生のレポートに見られる「のだ」の使用実態

—レポートで使用しないほうがいい用法—

苗田 敏美

### 1. はじめに

日本人学生のレポートには「のだ」「のである」を使用している文で不自然に思われる用法が見られる。文としては問題はないが、レポートで使用すると不自然に思われる「のだ」「のである」の用法があるのではないだろうか。先行研究においてはレポートにおける「である」と「だ」の混合使用や使い分けについてのものはあるが、レポートにおける「のだ」「のである」の用法について取り上げたものは管見の限りないようである。

そこで、本稿では日本人学生のレポートを対象に「のだ」「のである」の用法についての実態を明らかにし、レポートでは使用しないほうがいい用法とその原因を明らかにすることを目的とする。

なお、本稿で「のだ」「のである」の形以外に、「のか」「のではないか」「のだろう」「のであろう」「のだろうか」「のであろうか」も分析の対象とする。

### 2. 先行研究

「のだ」における先行研究は多くあるが、会話文にフォーカスを置いたものが多い。意味としては、説明、判断の根拠、命令、想起、強調、整調などが挙げられる。

野田(1997)によると、「の(だ)」を「スコープの(だ)」と「ムードの(だ)」に分けて機能を考察している。スコープの「の(だ)」は、「その前の部分を名詞化するために用いられるものであり、『の』+『だ』に近い機能を果たす」と述べている。一方、ムードの「の(だ)」は「文を名詞文に準ずる形にすることによって、話し手の心的態度を表すもの」であり、「対事的ムード」のみを担うか、「対人的ムード」も担うかという軸と、事態を状況や先行文脈と関係づけているか、関係づけていないかという軸の4つに分類している。対人的ムードの「のだ」は、「聞き手は認識していないが話し手は認識している既定の事態を提示し、それを聞き手に認識させようという話し手の心的態度を表す」ものであると述べている。

田野村(2002)では「のダ」は「背後の事情」や「実情」を表すため、話し手自身の心情や個人的な事情を表現する文に使用されることが多く、聞き手も容易に知ることのできる事柄を述べる場合にはあまり使用されないと述べている。

このように「のだ」は聞き手が認識していないことや意識していないことについて使用されている。

### 3. 調査概要

#### 3-1. 調査対象

医療系専門学校2年生の日本人女子学生55名が書いたレポートを調査対象とした。なお、学籍番号は1番から57番までであるが、2名欠員がある。

### 3-2. 調査期間

2018年7月に医療系専門学校で実施した。

### 3-3. 調査の方法と目的

社会言語学に関してのレポートを書かせた。事前に3つのテーマを与え、その中から1つ選ばせた。レポートは試験時間内に書かせた。資料などは持ち込み可とした。分量はA4用紙1～2枚程度である。

学生が書いたレポートにおいて「のだ」を使用した文に違和感を持った文がある。レポートでなければ自然な文といえるものもあったが、レポートで使用したために不自然さを感じた。そこで、レポート以外で使用しても問題ないが、レポートや論文など意見文で使用すると不自然なものを取り上げ、その原因を明らかにする。また、レポートを書く際に留意することで、この誤用は避けられると思われるので、留意点を明らかにする。

## 4. 調査結果

学生が書いたレポートで「のだ」を使用している文は、「のだ」37文(表1)、「のか」35文、「のである」19文(表3)、「のではないか」18文、「のだらうか」4文、「のだらうか」2文、「のではないだらうか」2文、「のだらう」1文、「んだ」1文(表2)であった。(ここで取り上げた「んだ」は例として挙げられている会話文は除き、書き言葉「のだ」の用法のものである。)これらのうち、「のだ」「のである」の用法で不自然な用法が見られた。「のだ」「のである」で見られた不自然な用法は文末に使用されているものであった。

例文は学生が書いたまま挙げており、誤字・脱字などに関しても修正はしていない。

表1 「のだ」の使用例

通し番号	学籍番号	使用文
4	4	「徒歩」という言葉に「る」をつけ、動詞のように使用しているのだ。
5	4	活用語尾の「る」を下接することで、意味的に動作性や状態性を有していないものも動詞化され、さらにおどけたニュアンスをもつようになるのだ。
6	4	そのためこういった表現を日常生活においても多用してしまうことが若者の言葉の乱れにもつながっているのだと思う。
8	9	「私は～やで、○○だと思う。」など文の接続として使っているのだ。
12	9	現代ではどんな言葉でも短縮されており、その流れによって「やばい」の多様化が進んだのだと考える。
18	13	つまりよい状況と悪い状況の両方で使用しているのだ。
21	14	例えば、会話の中で「楽しいげん」「楽しいがね」「楽しいがん」と使われるが、それぞれ意味は違ってくるのだ。
24	14	方言は親しみやすさがあるため、敬意を表す相手には不向きであるのだ。
25	14	このような方言は昔から金沢弁の特徴でもある「げん」「がん」のように「 <sup>レ</sup> 」を多く使用するので他の地域の方は汚い言葉というイメージを持つ可能性もあるのだ。
26	14	これらの特徴から、金沢弁というのは使い分けによっては十分に活用できるのだ。
27	14	方言にはいろいろな可能性を秘めているのだ。
37	21	または、発信力の強いYou tuberなどが動画内で変わった言葉のフレーズを遣うことで、それを観た視聴者が影響され遣ったりするのだ。
43	23	「やばい」という言葉は主に10代や20代の若者を中心に使用されているのだが、昔からある言葉ということもあり、30代以上でも使われている可能性は高い。
44	23	10年前の調査でも同じような質問をしたのだが、大幅に割合が増えたようだ。
51	25	例えば「スマートフォン」ということばを「スマホ」と略したり「シャープペンシル」ということばを「シャープペン」と略したり「自己中心的」ということばを「自己中」と略したりするのだ。
53	25	あとに続くはずの挨拶語が略されているのだ。

61	28	若者言葉についてもそのような流れで、誰かが生み出し、さまざまな使われかたによって、言葉が乱れ現在に至る <b>のだ</b> と考えた。
64	30	仲間意識を持ちたい、自分の気持ちを伝えたい、共感したい、また、じゃれ合いの時期だから、言葉で遊びたいし、笑いをとって仲間の気を引きたい、というこれらの目的が若者に若者言葉を使わせている <b>のだ</b> 。
72	37	つまり、「クソかわいい」というのは「最大級にかわいい」と訳される <b>のだ</b> 。
73	37	本来、「クソ」は悪い意味をさらに強調する時に使用されていた <b>のだ</b> 。
76	37	そのほうが、言いやすく意味が伝わりやすいうえに、使いやすいため、そのような変化が起こった <b>のだ</b> と考えられる。
77	37	ことばの変化は主に若者が作り上げたものであり、その多くの理由は「すご〜だ」、「とても〜だね」というような言い方より「クソ〜だ」と省略された言葉のほうが言いやすいため、多くの若者はたくさんのことばを変化させていく <b>のだ</b> と私は考える。
78	37	ことばの変化について、私は最初は格好良いと思い使用していたが、まず女性らしさがなく、下品だと感じたため、これから社会に出るということも含め、社会人らしく、正しく上品なことばを使っていこうと私は考えている <b>のだ</b> 。
79	37	周りが「クソかわいい」などと言っているのを耳にし、品がないと感じ、私が同じように使用すると「品がない」と思われる <b>のだ</b> と思うとやはり、素敵な大人には見られないと私は思う。
80	37	変化していることばを目上の人に使うのは伝わりにくく、とても失礼だと思う <b>のだ</b> 。
84	41	このようになればなるほど年配者との言葉の違いに大きな差ができ、結果、言葉の乱れとして出てくる <b>のだ</b> 。
86	42	だがインターネット、SNS 社会になっている今では、大人でも若者言葉を使うようになってきている <b>のだ</b> 。
89	46	また、それらの普及により簡単で使いやすく、「うん」「ああ」といった返事よりも相手の話を肯定していると感じさせる相槌であり、たった3文字で返答できるということからより一層「それな」が多くの人に広まり、使用されるようになった <b>のだ</b> 。
94	51	カタログはもともとカタログな <b>のだ</b> から、そこに変化はない <b>のだ</b> 。
96	51	現代では、若者を対象とした若者言葉といった言葉が目立っている <b>のだ</b> 。
97	51	そのため身近に「見られる」「来られる」という人はほとんどいなくなってきている <b>のだ</b> 。
100	51	若者言葉であってもことばはことばであり、みんなが正しいと認めれば使われていく <b>のだ</b> 。
102	51	そのため、ことばのどれが正しくてどれが間違っているかを決めつける事は出来ない <b>のだ</b> 。
104	54	最初に聞いたときは、犬のことを言っている <b>のだ</b> と思った。
111	55	それは、2009年頃から若者が1人1台にスマホを持つことが当たり前になったことが原因だと思う <b>のだ</b> 。
112	55	私の日常生活において、友達と遊んでいるときなど使っている言葉は乱れまくりな <b>のだ</b> 。
113	55	しかし、社会人になったときには、目上の人や、〇〇医院では患者さんに、一般的な共通語を使い、場をわきまえて、乱れていない言葉を使えばいいと思う <b>のだ</b> 。 <sup>(1)</sup>

表2 「んだ」の使用例

通	学	使用文
56	26	若者言葉というものは友達など仲間意識を高めたときに使用するものでそうでない人からすると不快な言葉となることもある <b>んだ</b> ということをきちんと理解して使用する必要があると考える。

表3 「のである」の使用例

通	学	使用文
9	9	目上の患者さんにとって正しい日本語を使うことが大切な <b>のである</b> 。
10	9	それに比べ、現代ではマイナスの意味でも使用するときはあるが「凄いや」「素敵だ」といったプラスの意味で使用している <b>のである</b> 。
23	14	だが、30代～50代あたりの目上の方に方言をたくさん使用してしまうと、慣々しい印象を扱えてしまい、信頼にも関わってくる <b>のである</b> 。
35	21	これらの言葉の遺用例としては、「とりま、お風呂に入ってから準備をする」「人の事を dis る」他者が話した内容に共感した際に遺用する言葉が「あーね」「それな」にあたる <b>のである</b> 。
39	22	この言葉が若者の間で短く略されて「りよ、り」という言葉に変化した <b>のである</b> 。
40	22	都会などで若者たちが使うようになり、それが全国に広がっていき、使っていくようになった <b>のである</b> 。
68	34	その字体が草が生えているように見える <b>のである</b> 。
71	37	「クソ」というのは「どのくらい」、「基準」、「レベル」を表し、「クソ」は「最大級」という位置にある <b>のである</b> 。
74	37	しかし、現代では「悪い意味を強調」から「意味を強調」に変化した <b>のである</b> 。
81	37	変化があることばは相手によって使用していいか、場面を振り分けて使用していくことが大切であると私は考える <b>のである</b> 。
95	51	したがって、「カタログでございます」と書くのが正しい表現だと言える <b>のである</b> 。
98	51	たが、現代では「楽」を優先する人が多くいる為、ら抜き言葉が多く利用される様になってきた <b>のである</b> 。
99	51	そのため正しさを決めつけるのは正しいとは言えない <b>のである</b> 。
101	51	もし、変化がない言語があるのなら、誤用やミスはなくなったとしても、新しい言語は生まれず、つまらない自然言語になってしまう <b>のである</b> 。
107	55	今、乱れた言葉を使い、言葉の変化について、おかしいと思う人がいなし <b>のである</b> 。 <sup>(2)</sup>
109	55	メールでのやりとりは今までは、「了解」と打っていたのが、「りよ」から「り」へと略され、単文へと変化し、違和感をもつことなく皆に伝わってしまった <b>のである</b> 。

114	57	「ウケる」という言葉は元々、「面白い」という形で使用されており、「ワロタ」という言葉は元々、「笑った」という形で使用されていたのである。
115	57	しかし、関西では昔から「わろた」、「わろうた」で「笑った」→「ワラタ」→「ワロタ」→「ワロス」と変化していったネット用語の第3段階にあたるのである。
117	57	しかし今回、元の形や意味などについて調べてみて、「ウケる」や「ワロタ」は乱れた言葉であり、客観的にみるととも汚い言葉というイメージになってしまうのである。

## 5. 考察

### 5-1. 構造

「のだ」においては、「と思う／と思った／と考える／と考えた／と考えられる」が下接するものが見られた。また、「のだが、」のように接続助詞が下接するものも見られた。これらはレポートにおいても自然な用法であると言える。

(1) 10年前の調査でも同じような質問をしたのだが、大幅に割合が増えたそうだ。  
(44-23) <sup>(3)</sup>

(2) そのためこういった表現を日常生活においても多用してしまうことが若者の言葉の乱れにもつながっているのだと思う。(6-4)

「んだ」は「ということ」が下接しているものが1例のみ見られたが、これもレポートにおいて自然な用法である。

(3) 若者言葉というものは友達など仲間意識を高めたいときに使用するものでそうでない人からすると不快な言葉となることもあるんだということをきちんと理解して使用する必要があると考える。(56-26)

「のである」は文末使用のみであった。「のだ」も「のである」もレポートにおいては不自然に感じたので、これらの前の構造を見てみる。

「のだ」においては、「動詞 - 辞書形+のだ」「動詞 - た形+のだ」「動詞 - ている+のだ」「動詞 - ていた+のだ」「動詞 - ない形+のだ」「な形容詞 - である+のだ」「ない+のだ」「な形容詞 - な+のだ」が見られた。

「のである」は「動詞 - 辞書形+のである」「動詞 - た形+のである」「動詞 - ている+のである」「動詞 - ていた+のである」「動詞 - ない形+のである」「な形容詞 - な+のである」が見られた。

これらのうち、「な形容詞-である+のだ」は不自然だと感じられた用法である。

? (4) 方言は親しみやすさがあるため、敬意を表す相手には不向きであるのだ。  
(24-14)

また、「と思う+のだ」「と考える+のである」も不自然に感じる。

? (5) それは、2009年頃から若者が1人1台にスマホを持つことが当たり前になったことが原因だと思ったのだ。(111-55)

? (6) 変化があることばは相手によって使用していいか、場面を振り分けて使用していくことが大切であると私は考えるのである。(81-37)

書き手自身が思ったり、考えたりしたことに「のだ」「のである」をつけると、偉そうなニュアンスを与えるため、不自然に感じられる。

一方、「と言える+のだ」「と言えない+のだ」は不自然さは感じられない。

(7) したがって、「カタログでございます」と書くのが正しい表現だと言えるのである。(95-51)

## 5-2. 文末で使用される「のだ」「のである」の用法

文末に使用されているもののうち、不自然なものを取り上げ、その原因を考察する。「のだ」の前に述べられている内容を「事実」「引用」「考察や意見」の3つに分類した。レポートの内容や書き方から筆者が判断し、分類を行った。

### 5-2-1. 事実を述べる文

「事実を述べる文」は現実の事象などを述べたものを指す。現実の事象であっても、先行研究などの引用や分析・考察の結果のものは含めない。

「事実を述べる文」に分類されたものは「のだ」11文、「のである」4文、見られた。これらは現実の事象について述べたものであるため、読み手も当然知っていることである。それを「のだ」「のである」をつけることで強調のニュアンスを表すことができるが、「のだ」は聞き手や読み手が知らないことに使用される傾向があるため、読み手が知っていることを強調することで不自然に感じるのだと考えられる。

？(8)「徒歩」という言葉に「る」をつけ、動詞のように使用しているのだ。(4-4)

(8)は読み手である教員が講義で説明したことを述べているため、不自然に感じられる。また、「徒歩ル」という語の作り方を説明しているにすぎず、書き手が発見した情報でもないため、不自然に感じられたのだと考えられる。

？(9)つまり、「クソかわいい」というのは「最大級にかわいい」と訳されるのだ。

(72-37)

(9)は書き手なりの解釈をしている文である。この解釈も特別な意味を持っているものではないので、「のだ」がないほうが自然である。

表4 「事実+のだ」の使用例

通	学	使用文
4	4	「徒歩」という言葉に「る」をつけ、動詞のように使用しているのだ。
8	9	「私は～やで、○○だと思う。」など文の接続として使っているのだ。
21	14	例えば、会話の中で「楽しいげん」「楽しいがいね」「楽しいがん」と使われるが、それぞれ意味は違ってくるのだ。
51	25	例えば「スマートフォン」ということばを「スマホ」と略したり「シャープペンシル」ということばを「シャープペン」と略したり「自己中心的」ということばを「自己中」と略したりするのだ。
53	25	あとに続くはずの挨拶語が略されているのだ。
72	37	つまり、「クソかわいい」というのは「最大級にかわいい」と訳されるのだ。
73	37	本来、「クソ」は悪い意味をさらに強調する時に使用されていたのだ。
86	42	だがインターネット、SNS社会になっている今では、大人でも若者言葉を使うようになってきているのだ。
94	51	カタログはもともとカタログなのだから、そこに変化はないのだ。
96	51	現代では、若者を対象とした若者言葉といった言葉が目立っているのだ。
112	55	私の日常生活において、友達と遊んでいるときなど使っている言葉は乱れまくりなのだ。

一方、読み手が知らない情報の場合、「事実を述べる文」は不自然さは感じられない。

(10)それに比べ、現代ではマイナスの意味でも使用するときはあるが「凄い」や「素敵だ」といったプラスの意味で使用しているのである。(10-9)

表5 「事実+のである」の使用例

通	学	使用文
10	9	それに比べ、現代ではマイナスの意味でも使用するときはあるが「凄い」や「素敵だ」といったプラスの意味で使用しているのである。

35	21	これらの言葉の遺用例としては、「とりま、お風呂に入ってから準備をする」「人の事を disる」他者が話した内容に共感した際に遺用する言葉が「あーね」「それな」にあたる <b>のである</b> 。
68	34	その字体が草が生えているように見える <b>のである</b> 。
107	55	今、乱れた言葉を使い、言葉の変化について、おかしいと思う人が <b>いなのである</b> <sup>(2)</sup> 。

したがって、現実の事象を述べる場合、「のだ」を使うことによって強調のニュアンスを表わすため、読み手が知っていることの場合は不自然に感じられるのだと言える。

### 5-2-2. 引用した文

「引用した文」は先行研究などを引用したり、調べたりした情報を述べている文を指す。「引用した文」に分類されたものは「のだ」1文、「のである」7文、見られた。「のである」のほうが多く使用されていた。

「引用した文」は書き手が発見したことや気づいたことではないため、「のだ」「のである」をつけて強調のニュアンスを与えると、不自然に感じられる。

? (11) しかし、関西では昔から「わろた」、「わろうた」で「笑った」→「ワラタ」→「ワロタ」→「ワロス」と変化していったネット用語の第3段階にあたる**のである**。(115-57)

直接引用であれば、自然であるが、「のだ」「のである」の前までを引用し、それに書き手が「のだ」「のである」をつけた場合、不自然さが感じられる。引用であれば、「ということである」「と述べている」などの表現が来るのが自然であるが、それらの表現を用いずに引用していると思われる文の場合、「のだ」「のである」で文が終わっている。引用した内容なのに「のだ」「のである」で自分が発見したことのように書いてあるので不自然さを感じるのだと考えられる。

表6 「引用+のだ」の使用例

通	学	使用文
5	4	活用語尾の「る」を下接することで、意味的に動作性や状態性を有していないものも動詞化され、さらにおどけたニュアンスをもつようになる <b>のだ</b> 。

表7 「引用+のである」の使用例

通	学	使用文
39	22	この言葉が若者の間で短く略されて「りよ、り」という言葉に変化した <b>のである</b> 。
40	22	都会などで若者たちが使うようになり、それが全国に広がっていき、使っていくようになった <b>のである</b> 。
71	37	「クソ」というのは「どのくらい」、「基準」、「レベル」を表し、「クソ」は「最大級」という位置にある <b>のである</b> 。
74	37	しかし、現代では「悪い意味を強調」から「意味を強調」に変化した <b>のである</b> 。
109	55	メールでのやりとりは今までは、「了解」と打っていたのが、「りよ」から「り」へと略され、単文へと変化し、違和感をもつことなく皆に伝わってしまった <b>のである</b> 。
114	57	「ウケる」という言葉は元々、「面白い」という形で使用されており、「ワロタ」という言葉は元々、「笑った」という形で使用されていた <b>のである</b> 。
115	57	しかし、関西では昔から「わろた」、「わろうた」で「笑った」→「ワラタ」→「ワロタ」→「ワロス」と変化していったネット用語の第3段階にあたる <b>のである</b> 。

### 5-2-3. 考察や意見を述べる文

「考察や意見を述べる文」は例文などを挙げ、それについて考察したり、意見を述べたりしたものを指す。「そのため」「～ため」といった原因や結果を表す表現や、「つまり」「したがって」といったまとめを表す表現と一緒に使われているものが多い。

「考察や意見を述べる文」に分類されたものは「のだ」11文、「のである」7文、見られた。全体として他の用法よりも多く使用されていた。

この用法は、書き手が自分の考えや意見を述べているため、「のだ」「のである」によって強調のニュアンスを表していても違和感なく、自然な文となっている。

(12) つまりよい状況と悪い状況の両方で使用しているのだ。(18-13)

(13) これらの特徴から、金沢弁というのは使い分けによっては十分に活用できるのだ。(26-14)

(14) したがって、「カタログでございます」と書くのが正しい表現だと言えるのである。(95-51)

表8 「考察や意見を述べる文+のだ」の使用例

通	学	使用文
18	13	<u>つまり</u> よい状況と悪い状況の両方で使用しているのだ。
25	14	このような方言は昔から金沢弁の特徴でもある「げん」「がん」のように「 <sup>^</sup> 」を多く使用する <u>ので</u> 他の地域の方は汚い言葉というイメージを持つ可能性もあるのだ。
26	14	これらの特徴から、金沢弁というのは使い分けによっては十分に活用できるのだ。
27	14	方言にはいろいろな可能性を秘めているのだ。
37	21	または、発信力の強い You tuber などが動画内で変わった言葉のフレーズを遣うことで、それを観た視聴者が影響され遣ったりするのだ。
64	30	仲間意識を持ちたい、自分の気持ちを伝えたい、共感したい、また、じゃれ合いの時期だから、言葉で遊びたいし、笑いをとって仲間の気を引きたい、というこれらの目的が若者に若者言葉を使わせているのだ。
84	41	このようになればなるほど年配者との言葉の違いに大きな差ができ、結果、言葉の乱れとして出てくるのだ。
89	46	また、それらの普及により簡単に使いやすく、「うん」「ああ」といった返事よりも相手の話を肯定していることを感じさせる相槌であり、たった3文字で返答できるということからより一層「それな」が多くの人に広まり、使用されるようになったのだ。
97	51	そのため身近に「見られる」「来られる」という人はほとんどいなくなってきたのだ。
100	51	若者言葉であってもことばはことばであり、みんなが正しいと認めれば使われていくのだ。
102	51	そのため、ことばのどれが正しくてどれが間違っているかを決めつける事は出来ないのだ。

表9 「考察や意見を述べる文+のである」の使用例

通	学	使用文
9	9	目上の患者さんにとって正しい日本語を使うことが大切な <u>のである</u> 。
23	14	だが、30代~50代あたりの目上の方に方言をたくさん使用してしまうと、慣々しい印象を扱えてしまい、信頼にも関わってくる <u>のである</u> 。
95	51	<u>したがって</u> 、「カタログでございます」と書くのが正しい表現だと言える <u>のである</u> 。
98	51	だが、現代では「楽」を優先する人が多くいる <u>為</u> 、ら抜き言葉が多く利用されるようになってきた <u>のである</u> 。
99	51	<u>そのため</u> 正しさを決めつけるのは正しいとは言えない <u>のである</u> 。
101	51	もし、変化がない言語があるのなら、誤用やミスはなくなったとしても、新しい言語は生まれず、つまらない自然言語になってしまう <u>のである</u> 。
117	57	しかし今回、元の形や意味などについて調べてみて、「ウケる」や「ワロタ」は乱れた言葉であり、客観的にみるととても汚い言葉というイメージになってしまう <u>のである</u> 。

### 5-3. 不自然に感じる原因

「事実を述べる文」は、読み手も知っていることを「のだ」「のである」をつけることで強調のニュアンスを表しているため、不自然に感じるのだと考えられる。一方、読み手が知らない情報であれば、不自然さは感じられない。

「引用した文」は書き手が発見したことや気づいたことではないため、「のだ」「のである」をつけて強調のニュアンスを与えると、不自然に感じられる。

「考察や意見を述べる文」は、書き手が自分の考えや意見を述べているため、「のだ」「の

である」によって強調のニュアンスを表していても違和感なく、自然な文となっている。

## 6. まとめと今後の課題

「のだ」においては、「と思う／と思った／と考える／と考えた／と考えられる」が下接するものや、「のだが、」のように接続助詞が下接するものも見られた。これらはレポートにおいても自然な用法であると言える。一方、レポートで使用すると不自然な用法も見られた。それは文末に使用されるものである。

「のだ」においては、「のだ」に接続する形として、「動詞 - 辞書形+のだ」「動詞 - た形+のだ」「動詞 - ている+のだ」「動詞 - ていた+のだ」「動詞 - ない形+のだ」「な形容詞 - である+のだ」「ない+のだ」「な形容詞 - な+のだ」が見られた。

「のである」は「動詞 - 辞書形+のである」「動詞 - た形+のである」「動詞 - ている+のである」「動詞 - ていた+のである」「動詞 - ない形+のである」「な形容詞 - な+のである」が見られた。

これらのうち、「な形容詞 - である+のだ」は不自然だと感じられた用法である。また、「と思う+のだ」「と考える+のである」も不自然に感じる。

不自然に感じる要因は、読み手が知っていることや、書き手以外の方が述べていることに「のだ」「のである」を使用するためである。これは、強調したり、偉そうなニュアンスを与えるため、不自然に感じられる。したがって、レポートや論文を書く際にはこのことに留意すべきである。

レポートを書く際には書き言葉で書くことを指導しているが、「だ・である体」で書くことを意識することで、使用しなくてもいいものにまで「のだ」「のである」を使用している場合もあると推測される。書き手にどのような意図で「のだ」「のである」を使用したのかを調査することで、書き手側の意図を反映した用法の分類が可能となる。これを今後の課題としたい。

### <注>

- (1) 職種が特定できる医院名が入っていたところは、「〇〇医院」を使用している。
- (2) 脱字を修正すると、「いないのである」が正確な文である。
- (3) 番号は（通し番号・学籍番号）を表す。

### <参考文献>

- 井島正博（2010）「ノダ文の機能と構造」『日本語学論集』6：75-117、東京大学
- 野田春美（1997）『「の（だ）」の機能』くろしお出版
- 田野村忠温（2002）『現代日本語の文法Ⅰ「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 吉田茂晃（2000）「<ノダ>の表現内容と語性について—<ノダ>は『説明の助動詞』か—」『山辺道』44：17-31、天理大学

（のだ としみ 金沢大学）

toshiminoda@hotmail.com